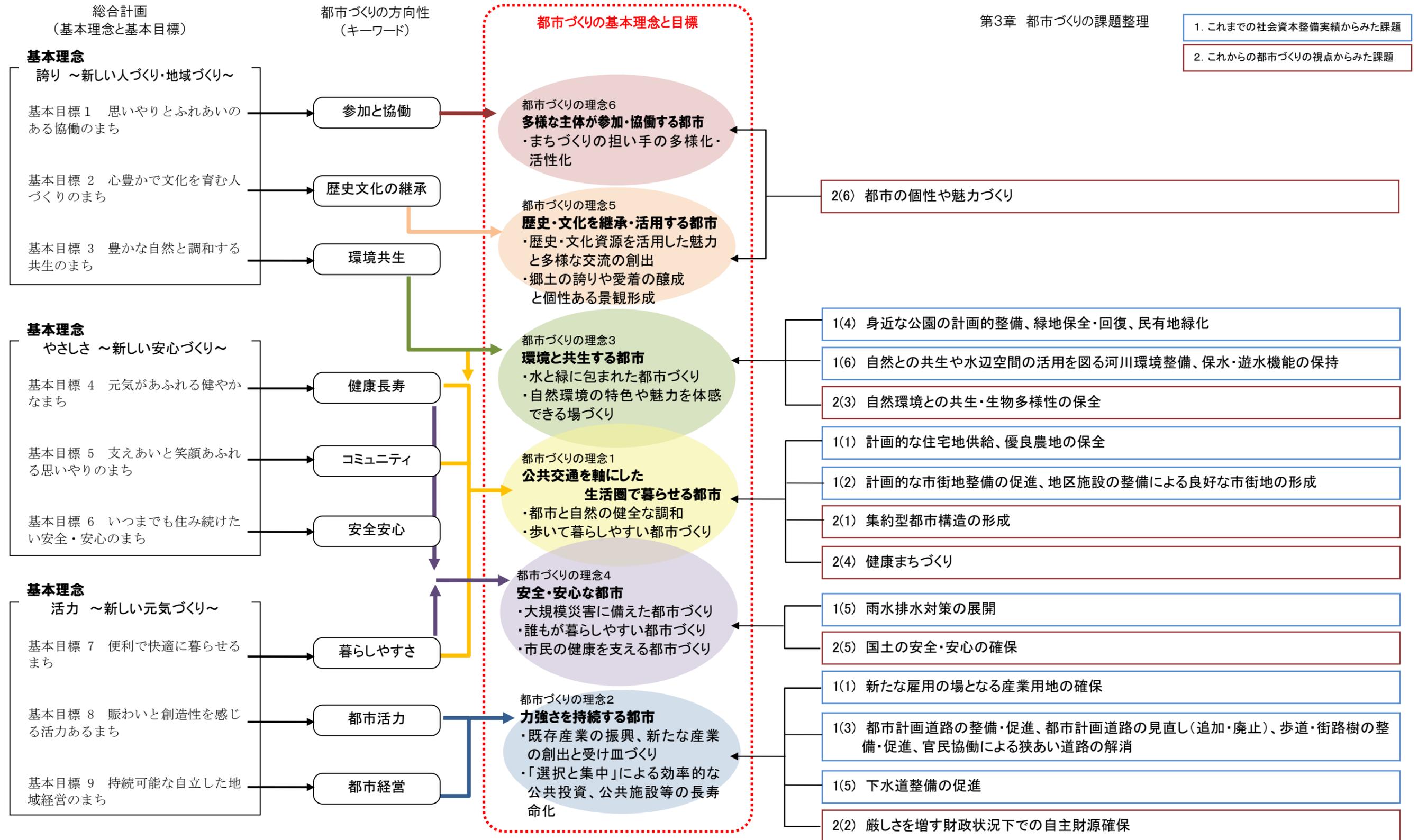


第4章

都市づくりの理念と目標

本市の都市機能特性、都市構造特性及び都市づくりを取り巻く時代潮流を踏まえた都市づくりの課題への対応と総合計画における基本理念・基本目標を踏まえ、本市のこれからの都市づくりを進めていく上での基本理念と都市づくりの目標を以下のように設定する。



都市づくりの課題整理

都市づくりの理念1 公共交通を軸にした生活圏で暮らせる都市

恵まれた自然環境と活力ある都市環境が健全に共存しながら、公共交通を軸に過度に自動車に頼らなくても暮らしやすい生活圏の形成を図ることで、高齢者や子どもをはじめ誰にとっても便利で暮らしやすく、環境にも優しい都市構造を形成する。

○目標1：都市と自然の健全な調和

- ・市街地の無秩序な拡大・拡散を抑制することで、本市をとりまく自然環境の枠組みを尊重しつつ都市活動との健全な調和をめざす。

○目標2：歩いて暮らしやすい都市づくり

- ・鉄道を活かす道路網整備や駐車・駐輪場整備、鉄道とバスが連携した公共交通ネットワークの充実により、世代やライフステージに応じて公共交通や自動車、また自転車や徒歩を上手に選択しながら便利に暮らせるまちづくりを進め、高齢者や子ども等の交通弱者にとっても歩いて暮らしやすい都市構造の実現をめざす。
- ・将来の居住人口を維持する中で身近な生活圏での生活利便性を高めていくため、公共交通網の充実と連携し、公共交通にアクセスしやすい主要鉄道駅周辺での人口集積を高めつつ、商業・福祉機能などの都市機能の集約配置をめざす。
- ・公共交通網のアクセス利便性が低い郊外部の住宅団地などにおいては、地域の生活圏ごとに生活基盤となる利便施設を確保するなど、一定の居住人口と生活利便性や地域コミュニティを維持できるまちづくりをめざす。

都市づくりの理念2 力強さを持続する都市

都市運営のための財政環境の厳しさが増していくなかで都市の活力を保っていくために、本市を含めた中部地方の強みである「ものづくり産業」の基盤を確保するとともに、市民生活の質を高め、若年世代や女性の雇用につながるような商業・サービス業をはじめとする新たな産業の場を確保する。同時に、効率的で持続性のある公共投資を進める。

○目標1：既存産業の振興、新たな産業の創出と受け皿づくり

- ・既存産業の操業環境を確保するとともに、広域的な道路網の形成なども見据えつつ新たな産業立地の受け皿となる産業用地の確保をめざす。
- ・長寿・健康に関わるサービス産業をはじめ、市民の暮らしやすさに貢献する新たな産業誘致などにより、雇用の場を生み出し、にぎわいや活力の創出をめざす。
- ・郊外部等での無秩序な開発を抑制し一団の優良農地の保全を図るとともに、地産地消の推進や農業の担い手となる人材育成等を進めることで、都市と農業の共存をめざす。

○目標2：「選択と集中」による効率的な公共投資、公共施設等の長寿命化

- ・必要な施策を見極め、集中的に投資を行っていくと同時に、公共施設の再編・集約化の検討や拠点地域における効果的なまちづくりを進め、限りある財政下において効果的に「選択と集中」による効率的な公共投資をめざす。
- ・長期的にみた都市運営コスト抑制の視点から、公共施設などの長寿命化を図るとともに、民間事業においても既存ストックの有効活用やリノベーション(機能再生)等を働きかけ、持続性のあるまちをめざす。

都市づくりの理念3 環境と共生する都市

水と緑豊かな自然環境は、歴史・文化とともに、過去から未来まで継承していくべき本市固有の財産であり、地球環境の視点からもその保全への取り組みの重要性が増している。また、自然環境に人々が触れ、体感して楽しむことにより、新たな交流を生む原動力となる。こうしたことから、自然環境と都市環境が共生する都市づくりを進める。

○目標1：水と緑に包まれた都市づくり

- ・市南部の木曾川の水辺環境、北部の丘陵樹林地、市街地を取り囲む農地や里山など豊かな自然環境と、そこに生きる生態系の保全により、地域の自然環境の持続的な継承をめざす。
- ・ヒートアイランド化の抑制や二酸化炭素の排出量抑制の視点から、市街地内の緑化を推進するとともに、自動車への過度な依存を抑制し、公共交通や自転車利用により移動のしやすいまちづくりをめざす。

○目標2：自然環境の特色や魅力を体感できる場づくり

- ・木曾川をはじめとする豊かな自然環境の魅力を活かし、市民や市外の人々が集まり、自然環境を体感しながら交流やふれあいを楽しんだり、学ぶことができる公園・緑地の整備・保全をめざす。また、市街地をとり巻く良好な自然環境を暮らしに取り込み、自然と共生できるよう、河川・公園・緑地のネットワークを形成する。

都市づくりの理念4 安全・安心な都市

将来想定される大規模災害への対応から身近な安全性の見直しまで、災害への備えが急務とされている。また、長寿社会においていかに都市環境の面から市民の健康を支える機能を備えていくか、という課題もこれから重要性を増していくと考えられる。こうした課題に対応し、市民が安心して暮らし続けられる都市づくりを進める。

○目標1：大規模災害に備えた都市づくり

- ・大規模災害を想定し、災害に強い都市基盤を形成するとともに、多様な主体の参加と助け合いも促しながら防災・減災のまちづくりをめざす。

○目標2：誰もが暮らしやすい都市づくり

- ・誰にとっても日常的に安全・安心な暮らしが営めるよう、身近な防災や交通安全対策、移動の障壁を減らしていくなど、暮らしやすい都市空間の形成をめざす。

○目標3：市民の健康を支える都市づくり

- ・「健やかに長寿社会を迎える」ために、健康によいライフスタイルを送りやすい都市環境という視点からのまちづくりとして、環境共生や歴史・文化の継承など他の施策とも連携し、歩行者・自転車の交通環境の質を高め、「歩いて巡ることが楽しいまち」をめざす。
- ・郊外部の住宅団地などにおいて、生活利便性やコミュニティの維持とあわせて歩いて暮らしやすい施設整備や住宅施策などを組み合わせ、健康増進や福祉向上に資するまちづくりをめざす。

都市づくりの理念5 歴史・文化を継承・活用する都市

自然環境の特色と並んで、過去から変わらず「各務原らしさ」を形づくっている重要な基盤が、本市固有の歴史・文化であり、今後の都市づくりにおいてもその継承と活用による個性豊かな都市づくりを進める。

○目標1：歴史・文化資源等を活用した魅力と多様な交流の創出

- ・中山道の街道筋にある歴史的資源や身近な歴史・文化に係わる資源や景観を保全、活用し、本市を特徴づける歴史的景観の保全と再生をめざす。
- ・本市ならではの歴史・文化資源やまちなみ景観等を積極的に活用し、観光客をはじめとする来訪者が何度も足を運びたいような魅力づくりを進め、多様な交流の創出をめざす。

○目標2：郷土の誇りや愛着の醸成と個性ある景観形成

- ・市民と行政の協働によるまちづくりを推進していくうえでの原動力として、また、市民生活の質的充実に向け、歴史や文化の継承と活用を通じて、市民の郷土に対する誇りと愛着を育むことをめざす。
- ・多くの市民が日常的に目にする市街地の景観については、住宅地や商業地、駅周辺など、それぞれの市街地にふさわしい個性的で魅力ある良好な都市景観の創出をめざす。

都市づくりの理念6 多様な主体が参加・協働する都市

従来の地域コミュニティの基礎単位である自治会に加え、文化の継承や歴史まちづくり、公園の維持管理など、本市においてさまざまな形で進められている市民参加形態を活かし、都市づくりの理念1～5を実現していくうえでの原動力として活かしていく。

○目標：まちづくりの担い手の多様化・活性化

- ・市民、企業、NPO などさまざまな主体の参加機会を充実するとともに、多様なまちづくりの担い手等の育成により、協働によるまちづくりの促進をめざす。